

みなさまの寄附金を活用して 大阪を元気にする9事業を支援しました！

～令和7年度 大阪市市民活動推進助成事業～

区政推進基金(市民活動支援型)への寄附金を活用して、令和7年度は9つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施している団体より、事業報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

＜令和7年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の寄附について＞

寄附金額 : 10,229,716円

★寄附者の皆さま★

【クリック募金協賛企業】(令和8年6月17日現在)※50音順
愛眼株式会社、アスト株式会社、大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、
株式会社クーバル、クジラ株式会社、株式会社ココロ、株式会社五大、
センコー株式会社、株式会社日伝、株式会社ハヤシコーポレーション、
株式会社一二三工業所、株式会社フォーシックス、株式会社宮田運輸

「クリック募金」とは、事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業等からクリック数に応じた金額を大阪市にご寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

【大阪WAONによるご寄附いただいた企業】

イオンリテール株式会社、株式会社ダイエー

「大阪WAON」とは、イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。

このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

【その他令和7年度にご寄附いただいた団体・企業等】

39者

地域住民の多世代交流を通して行う地域生活支援事業

特定非営利活動法人 ここから100

事業HP等のURL：<https://cocokara100.com/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

高齢者・おひとり様を孤独・孤立にさせない 誰一人取り残さない

「孤独・孤立によるひきこもり・孤独死」の増加が社会問題

- 孤独・孤立が起こることで災害時に高齢者や障がい者等が取り残されることも多く、そういった観点からも多世代との地域交流が必要不可欠です。最近懸念されている南海トラフ等の災害があった場合、高齢者や障がい者等がひとりで避難することが難しく、取り残される事態を防ぐため、若者や子供と協力して避難する必要があります。

【事業の紹介】

つながりサポーター養成講座孤独・孤立について

12月16日 内閣府・野村総研より講座 参加18名

1月14日 参加8名2月25日参加者10名/3月25日参加者8名 合計44名

サバイバル教室 6月25日こども参加 16名

災害時に生きていく力を学ぶ

講師・一社）72時間サバイバル教育協会・ハロウィンぼうさいキャンドルナイト2025

淀川区役所市民協働課とぼうさい推進共同事業多世代交流・ぼうさい意識の向上・啓発活動

参加者 2500人

こども食堂ここから100・ここコミュ 36回 累計968名



防災カフェ

6月7日 ぼうさい散歩 地域のぼうさいをまなぶ

8月2日 ぼうさいキャンドルづくり親子 8組

ぼうさいクッキング 爆弾おにぎりをつくろう

9月1日 ぼうさいノートと一緒にかきましょう。

11月25日 淀川区西中島 35名 ぼうさい講座

【事業実施の成果】

1. 孤独・孤立を防ぐ地域包括ケアと「つながり」の創出

現代社会の深刻な課題である孤独・孤立問題に対し、当法人は年間を通じて草の根のコミュニティづくりと人材育成に注力いたしました。

孤立を防ぐ担い手の育成： 内閣府・野村総合研究所の知見も交えた「つながりサポーター養成講座」を計 4 回開催し、地域で周囲に目を配り、支え手となるサポーターを新たに 44 名養成しました。

専門性と多様なアプローチ： 「世界アルツハイマーデー」に合わせた認知症講座（参加 12 名）では、中小企業診断士や社会福祉士・介護士・看護師と連携し、ビジネスや地域一体で高齢者を支える視点を養いました。

成果とアピール： 単に集まる場を作るだけでなく、「孤立に気づき、つながりを作る」専門知識を持った市民サポーターが着実に増えており、地域の中で孤独・孤立を未然に防ぐセーフティネットが強固になっています。

2. 「楽しい」から始まる、多世代巻き込み型の持続可能な防災啓発

従来の座学中心の防災訓練ではなく、こどもや若い親世代が自発的に参加したくなる「体験型・エンタメ型防災」を実践し、圧倒的な地域巻き込み力を実証しました。

行政との協働による大規模啓発： 淀川区役所市民協働課との共同事業「ハロウィンぼうさい 2025・キャンドルナイト 2025」では、2,500 人という極めて多くの地域住民を動員。多世代交流を楽しみながら自然に防災意識を高める啓発活動として、行政からも高い評価を得ています。

地域に根ざした「防災カフェ」の展開： 地域の危険箇所を学ぶ「ぼうさい散歩」、親子で取り組む「キャンドル・クッキング（爆弾おにぎり）ワークショップ」など、日常に溶け込んだ防災プログラムを継続。また、当法人の防災士をはじめとする専門講師陣により、ぼうさい講座や、淀川区民センターでの 250 名規模の大型講座、さらには市議員を交えた講座など、草の根から地域中枢まで幅広い層へ知識を届けました。

成果とアピール： 「防災は難しくて退屈なもの」という壁を壊し、日常のイベントや食を通じて、淀川区全体の「地域防災力」の底上げに大きく貢献しました。

【今後の展望と課題】

活動の規模が拡大し、社会的な期待が高まる一方で、持続可能な組織運営に向けて以下の課題を認識しており、それぞれ対策を進めています。

運営メンバーの固定化と次世代の担い手育成（人材の課題）

現状と課題： 現在、こども食堂や防災講座などはコアメンバーの熱意と高い専門性（介護福祉士、防災士、生前整理診断士など）に支えられています。しかし、長期的な継続を考えると、運営側の高齢化や固定化を防ぎ、次の世代（若い親世代や大学生など）へ運営のノウハウを継承していくことが急務です。

対策： 「つながりサポーター養成講座」の卒業生から次のリーダー候補を育成するほか、大学との連携（大学生を交えたアートワークショップなど）を強化し、若い世代が「支え手」として楽しく参画できる仕組み（インターンやボランティアの受け入れ体制）を整備します。

② 単発の助成金に依存しない、自主財源の確保（資金・経営の課題）

「ひきこもり等に関する無料相談窓口」を各区に開設および準備するための事業

特定非営利活動法人 青少年自立支援施設淡路プラッツ

事業HP等のURL : <https://www.awajiplatz.com/>



助成額：379,000 円

【事業の目的】

●活動概要

ひきこもりのご家族（特に保護者）を主な対象として、大阪市の各区ごとに「無料相談窓口」を設け、長期化および高齢化するひきこもりも含む相談と支援を行います。月に1回（1時間×2枠）の開設を目標とします。

●事業の目的

相談内容から適切な「見立て」を行い、各区および市内の身近で適切な社会資源（支援機関）に繋ぐことを目的とします。これにより支援のミスマッチや中断を避け、切れ目のない支援を提供することで、家族と本人の孤立を防ぎ未来を創ることを目指します。

また、支援がまだ整っていない区のひきこもり支援を担うことで、各区の支援の差異や取りこぼしを無くし、気軽に相談できる体制を整備することで大きな社会課題および地域課題であるひきこもり問題の解決に寄与したいと考えています

【事業の紹介】

事業計画（前半）

- ・各区の窓口の現状把握、準備、各種調整（担当課・場所・頻度等）、広報
- ・各区の社会資源の把握および掘り起し（協力体制の構築）

事業計画（後半）

- ・区のHPやSNS・広報誌、当団体作成の広報チラシを通じて、市民に周知
- ・無料相談窓口の設置（月1回、2枠程度からが望ましいですが、初年度は隔月か3～4か月に1回が妥当と考えています）。

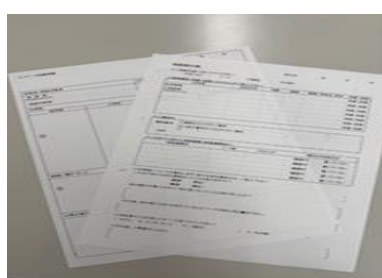
●大阪市各区の相談窓口開設のためのヒアリング（電話、訪問等）

東淀川区役所保健福祉課、NPO法人ハローライフ、大阪市こころの健康センター、コネクションズおおさか、大阪市社会福祉協議会、天王寺区役所、生野区役所、西成区役所、生野区保健福祉センター保健福祉課、北区社会福祉協議会、淀川区役所保健福祉課、東住吉区社会福祉協議会、生野区社会福祉協議会、住吉区役所、東淀川区社会福祉協議会、等

●ひきこもり無料相談会

（2月）東淀川区：参加者0名（予約後当日キャンセル）

（3月）東淀川区：参加者1名



【事業実施の成果】

- 大阪市各区のひきこもり支援の現状を一部知ることができた。
- 各区における地域性や課題、支援体制を一部知ることができた。
- 区内および課内での連携があり、支援体制が機能している区もあることが分かった。
- 10 区のヒアリングや訪問を行うことが出来たが、当初想定していた 16 区には至らなかった。
しかしながら、区の担当課によっては今後のネットワークに協力的に繋がった区があった（想定よりは少なかったが、今後に期待）。
- “よろず相談”としての窓口はあるが、明確なひきこもり相談窓口は無く、年齢によって支援担当課がバラバラで連携できていない印象があった（子ども、福祉、教育、困窮、高齢者等）。また、継続相談に繋がっておらず、かといって繋ぎ先も無く、居場所も少ない現状があった。
- 担当者が単独でケースを抱えており連携には至っていないことから、有効な支援システムとして機能していない部分が見えた（個人の努力に留まっていることが課題）。
- “こども・障がい・困窮”への支援はまだ手厚いが、25～50 代の若者支援（ひきこもり等）において特に「困窮でも無く、障がいでも無い方々」の支援（相談先）が無い、または置き去りにされている現状が見えてきた。

【今後の展望と課題】

- 上記の現状と課題（25～50 代の若者支援（ひきこもり等）が置き去りにされていること）を踏まえ、令和 8 年度も引き続き各区でのヒアリングを続けることで、現状把握から担当窓口の明確化を図る。以降、可能な範囲で無料相談枠が整備され開催されることを目指す（ex.月 1 回、隔月もしくは 3～4 か月に一回、2 枠設定など）。
- 行政窓口担当者“個人”ではなく“仕組み”の問題が大きく、また地域特性もあることから各区に見合った「ロールモデル」を見つけ、それらの周知・啓発と実動に努める。
- 専門支援機関（NPO/市民セクター）との連携のもと「ひきこもり無料相談」を開催することで、市民の声を行政に届けていく。それにより、今後は行政の制度を活用したひきこもり支援の確立を目指していく。

校内サードプレイス事業

晴明丘地域活動協議会

事業HP等のURL : [instagram.com/seimei.chikatsu](https://www.instagram.com/seimei.chikatsu)



助成額：72,000 円

【事業の目的】

増え続けている中学生不登校の予防、若者の引きこもりの早期予防を目的として、学校内に学校と地域のハイブリッド型の、安全安心に過ごすことの出来る居場所、理由や目的がなくてもふらっと立ち寄れる中学生サードプレイスをつくり、子どもを見守ります。

【事業の紹介】

校内の図書室に於いて、毎週火曜日の放課後 15 時 30 分～17 時 30 分までの間、校内居場所を開所しています。

利用生徒数は 1 回につき 10 名～15 名くらいで、学年も混ざりながら、集まってカードゲームする子どもたち、絵を書く、ひとりで本を読む、宿題をする、友達やスタッフと談笑するなど、来る理由はそれぞれ、その人にとっての大切な時間、場所になって欲しいと思って開所しています。



【事業実施の成果】

毎回サードプレイスで過ごす時間を楽しみにしている生徒がたくさんいます。

自分の苦手なことも好きなことも、ありのままを言葉にしながら私たちに接してくれます。確かめるように将来なりたい自分について話してくれる子もいます。

中には、しんどい家庭的な背景について呟く子もいます。私たちはそれを受け止めることしか出来なかったりするのですが、一緒に時間を過ごし、子どもの声を聞く大人が側にいることで、自分らしさを回復して次の一歩を踏み出せるような力を蓄えられる時間と場所になっているように感じています。

「子どもの声を聞く」その場所がある大切さを実感しています。



【今後の展望と課題】

校内サードプレイスの周知は、校内ポスターや学年集会で生徒への紹介、学校に於いて保護者一般向け校内サードプレイス事業報告を兼ねたフォーラムを定期的を開催しています。これらの周知活動を継続しながら、全ての生徒が安心してふらっと立ち寄りやすい場所にして行きたいと思っています。

カラーサポートプログラム

NPO 法人 TrueColors

事業HP等のURL : <https://www.truecolors.jp/>



助成額：474,000 円

【事業の目的】



カラーサポートプログラムは、NPO 法人 TrueColors が実施する色覚多様性の啓発活動の一つです。

美術展・アート展など、「色」が重要な意味を持つ催しにおいて、色覚少数派には多数派の色の見え方を体験できる簡易型色覚補助レンズ「Reading Colors AD」を、多数派には少数派の色の見え方を体験できる色覚体験レンズを貸し出し、それぞれの“見え方の違い”を体験できる機会を提供しています。

【事業の紹介】

NPO 法人 TrueColors では、大阪市民活動推進助成事業として、「カラーサポートプログラム」を実施しました。

本事業では、2025 年 12 月 5 日（金）～7 日（日）に梅田サウスホール（大阪市北区）で開催された「UNKNOWN ASIA 2025」にブース出展を行いました（12 月 4 日は VIP プレビュー）。UNKNOWN ASIA 2025 には、アジア 10 カ国・地域以上から 100 組を超えるアーティスト・クリエイターが参加し、イベント来場者数は 7,980 人（主催者発表）でした。



TrueColors ブースでは、色覚少数派には多数派の色の見え方を体験できる簡易型色覚補助レンズ「Reading Colors AD」を、多数派には少数派の色の見え方を体験できる色覚体験レンズを貸し出し、色覚多様性についてのレクチャーや相談対応も実施しました。

また、色覚特性により見え方が異なる「ダブルビジョン」作品展示や、色相・明度を変化させたリングのイラストを用いた参加型企画など、体験型コンテンツを導入しました。

会期中の色覚体験レンズ／簡易型色覚補助レンズ体験者数は約 90 人、従事者数はのべ 20 人となりました。

【事業実施の成果】

会場では、色覚少数派当事者の方々から、
「今まで見ていなかった色の境界が見えた」
「美術展を“色が分からない場所”として避けていた」
「初めて作品を“楽しい”と思った」
といった声が寄せられました。



また、多数派の来場者が色覚体験レンズを通して“少数派の見え方”を体験することで、
「同じ作品でも見え方が全く違うことに驚いた」
「“配慮”の前に、まず知ることが大切だと思った」
という感想も多く寄せられました。

さらに、本取り組みは共同通信社による取材・記事配信が行われ、全国の新聞・ニュースメディア等で紹介されました。

共同通信の事前報道をきっかけに、遠方（横浜）から本ブースを目的に来場したケースもあり、継続的な関心や認知拡大につながりました。

また、本イベントへの出展は今回で4年目となり、過去来場者が新たな同行者を伴って再訪するケースも確認されました。

UNKNOWN ASIA 出展アーティストの中にも色覚特性を有する方がおり、本ブースに自発的に訪問するケースも見られるなど、アート関係者への認知も広がりつつあります。

【今後の展望と課題】

今後は、美術展・アート展の主催者に対して、色の見え方の違いによって芸術に触れるハードルを高く感じている色覚少数派の方々への理解を促し、カラーサポートプログラムの導入を広げていきたいと考えています。

公共施設などで老眼鏡が常備されているように、美術展・アート展などにおいても、簡易型色覚補助レンズを自然に利用できる環境づくりを目指しています。

一方で、色覚特性は生まれつきの特徴であり、それぞれが生活の中で適応しているケースも多いため、不便や困りごとが社会に見えにくい側面があります。しかし実際には、職業選択や日常生活において不便・不都合が存在しており、その影響は個々の特性や環境によって異なります。

また、色覚多様性は現在も十分に認知されているとは言えず、話題にしづらい空気も存在しています。特に、美術・アート分野は「色」が重要な要素であることから、主催者・文化施設・行政などにおいても、色覚多様性への理解を深めていく必要があると考えています。

今後も、メディアやイベントを通じて「色の見え方は人それぞれ違う」という認識を社会に広げ、行政・文化施設・民間事業者など多様な主体と連携しながら、色覚多様性について自然に理解・対応できる環境づくりにつなげていきたいと考えています。

大阪ミナミの繁華街に集う若者に安全な居場所と包括的支援を届ける事業

認定 NPO 法人 D×P

事業HP等のURL：<https://www.dreampossibility.com/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】



大阪ミナミの繁華街には家庭や学校などに居場所がなく、不安や孤立を抱えながら過ごす若者がいます。本事業では、繁華街で過ごす若者たちが安心して立ち寄れる居場所を提供するとともに、食事や相談支援を通じて信頼関係を築き、ひとりひとりの状況に応じた支援につなげることを目的として実施しました。また、生活スキルの習得や仕事体験、地域活動への参加機会なども届けました。

【事業の紹介】

2025 年 4 月から 2026 年 3 月まで、大阪市中央区難波において、週 2 回のユースセンターを運営しました。期間中の居場所利用者はのべ 4,308 人にのぼりました。

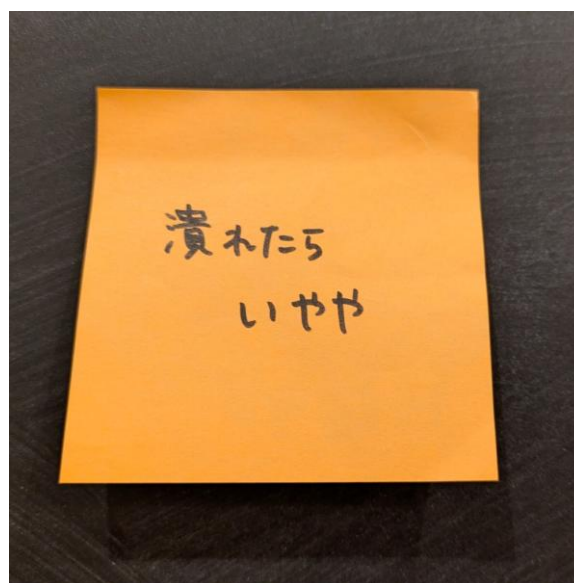
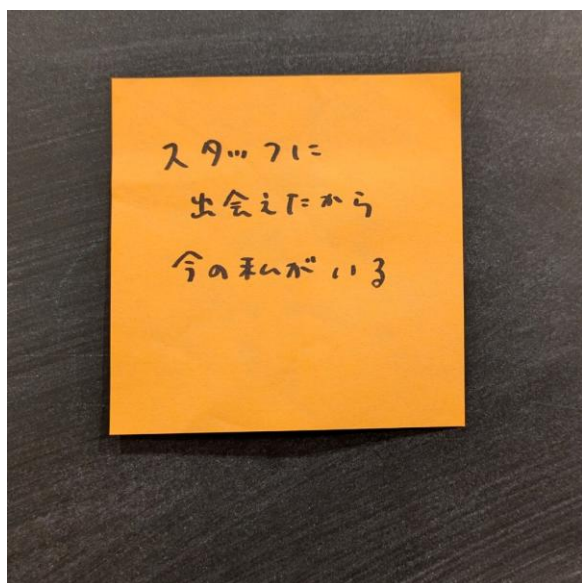
ユースセンターでは、手づくりの食事や日用品の提供に加え、個別相談や同行支援を実施しました。また、「ひとり暮らし」「お金の管理」などをテーマとした生活スキル向上プログラムや、調理補助・配膳などの仕事体験も実施し、若者が安心して過ごしながら学びや挑戦ができる場づくりに取り組みました。



【事業実施の成果】

ユースセンター居場所利用者はのべ 4,308 人、個別相談・同行支援は 504 件、提供した食事は 4,007 食となりました。また、若者の地域活動や体験企画への参加はのべ 366 人に達しました。

継続的な居場所運営により、これまで支援につながりにくかった若者との関係性を築くことができ、住居確保や医療受診、行政手続きなど具体的な課題解決にもつながりました。若者からは、「ごはんがおいしい」「スタッフに会えたから今の私がいる」といった声も寄せられています。安心して居場所から相談支援、社会参加へとつながる支援の流れをつくることができた 1 年となりました。



【今後の展望と課題】

若者が抱える課題は、住居、就労、生活スキル、医療や福祉とのつながりなど多岐にわたり、居場所の提供だけでは十分ではありません。また、制度への不信感や手続きの複雑さから、必要な支援につながりにくい状況も見られます。

今後は、ユースセンターを起点とした伴走支援をさらに強化するとともに、行政や地域団体などとの連携を深め、支援の選択肢を広げていきます。また、生活スキル向上プログラムや仕事体験の充実を図り、若者の生活再建や社会参加を後押ししていきます。さらに、現場で得られた知見を整理し、繁華街における若者支援のモデルとして広く発信していく予定です。

困難を抱える高校生を対象としたプログラミング学習・キャリア支援事業

認定 NPO 法人 CLACK

事業HP等のURL : <https://clack.ne.jp/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

日本の子どものうち9人に1人が相対的貧困にあるという調査報告があり、家庭環境によって様々な知識、経験、学習機会等に格差が生まれています。また、義務教育課程でない高校生は将来を見据える重要な時期を迎えるにも関わらず、支援が少ない現状があります。

当団体では、困難を抱える高校生を対象に就労へつながりやすい IT スキルを身に着けると同時に、「自己肯定感」などの、社会で暮らす基盤になる力を育むことを目的としています。本事業を通じて、プログラミングスキルの獲得、キャリア教育の無料提供による子どもの経済的・精神的自立と、貧困の連鎖を解消することを目指します。

【事業の紹介】

- ・参加対象：生活困窮、ひとり親、不登校、いじめを受けた経験、外国ルーツ、発達障害といった経済的理由や様々な環境要因で困難を抱える高校生です

- ・開催日程：月 2 回 土曜日 14:00-16:30 (2025 年 4 月～2026 年 3 月)

- ・開催場所：大阪市都島区京橋 QUINT BRIDGE

- ・活動内容：プログラミング学習およびキャリア支援を行う教室「Tech Runway+」を実施。教室は月 2 回×4 ヶ月間を 1 区切りとし、4 カ月で Web サイト、ゲームアプリ等の何らかの制作物完成を目指す。

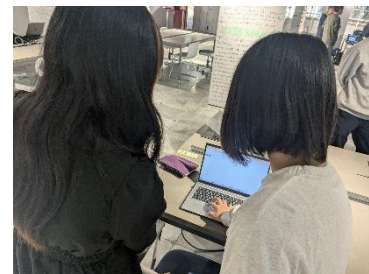
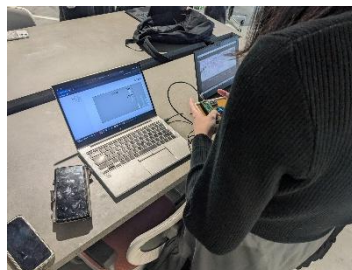
- ・参加者数（延べ人数。合計 237 人）

4 月～6 月の実施：86 人

8 月～10 月の実施：76 人

12 月～2 月の実施：75 人

・実施風景



【事業実施の成果】

参加者の声（アンケートより抜粋）

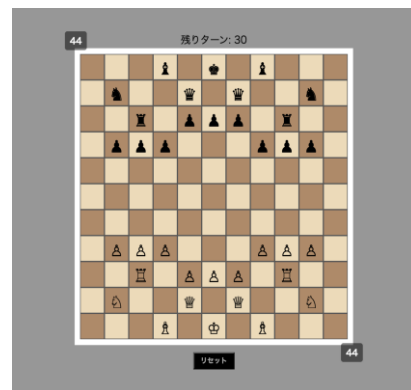
- ・四か月間で AI をうまく使ってプログラミングを学べて、新たに IT パスポートの資格を取る目標ができて有意義な時間を過ごせたと思います。
- ・AI を多く使うことが意識できるようになって成長できたように感じた
- ・最近は家でもパソコンを開いてプログラミングをできているので、以前よりも時間をうまく使えるようになった気がして成長できたように感じます。また、毎回ですが、いつも人と話したり、プログラミングをしたりと楽しく過ごせました。
- ・人とかわりながらプログラミングができて楽しかったです
- ・自分の実力が着いたのもそうだけど周りの面白い話ややっている取り組みをお互いに共有し合うのが楽しかった。

参加者の制作した成果物

- (1) TODO リスト。完了した TODO を別のアプリに送信する機能付き
- (2) オリジナルボードゲーム。チェスと将棋を組み合わせた新しいゲーム



(1) : TODO リスト



(2) オリジナルボードゲーム

【今後の展望と課題】

2025 年度の課題

AI 技術の進展により、高校生の学び方への対応が課題となっている。AI が自動でプログラミングを行ってしまう環境では生徒の学習が妨げられる恐れがあり、AI 活用方法の指導体制とエンジニアのサポートスタイルの両面での見直しが求められている。

2026 年度の実施

AI 学習モードの活用により生徒への出力内容を調整しつつ、適切な AI 活用教材を整備する。エンジニアのサポートも、生徒が問題を言語化できる支援や制作設計へのアドバイス中心の体制へと転換していく。

「グローバルユース防災サミット in 大阪・関西万博」の開催および 大阪市を拠点とする防災活動

グローバルユース防災サミット実行委員会

事業HP等のURL : <https://youthbosai2025.net/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

大阪市に在住・在学するユース（小学生～大学生）を対象に、防災教育と実践活動を通じて地域防災を担う次世代人材を育成する。ユースが主体的に大阪の災害の歴史や防災課題を学び、多文化共生の視点を持ちながら、外国にルーツを持つ住民や留学生、海外ユースとの交流を推進。大阪・関西万博での国際防災サミットや「防災世界地図」の制作を通じ、世界とつながる BOSAI の重要性を国内外へ発信し、大阪全体の地域防災力向上に寄与する。

【事業の紹介】



万博でのサミット開催



水上消防署見学



高度専門教育訓練センター



映画上映会



次世代 BOSAI フォーラム



市内中学校での防災発表

1 災害の歴史や防災の現状を学び知識を培う活動

実績：ユース 245 名（海外 22 名）、保護者・教員 58 名、一般（こども含む）164 名

- (1)4/12(土)キックオフ&ユース会議 (2)5/16(金)大阪市立阿倍野防災センター見学
(3)5/18(日) 大阪市水上消防署見学 (4)5/18(日)人と防災未来センター見学
(5)5/19(月) 津波・高潮ステーション (6)6/5(木) 防災世界地図 web 版オンライン学習
(7)8/10(日)「ユース BOSAI 万博」 (8)9/20(土)、(9)9/21(日)震災ドキュメンタリー映画上映
(10)2/21(土) 大阪市消防局高度専門教育訓練センターでの防災・救命訓練

2 防災を学び、防災講座など地域での実践に変える活動

実績：ユース 31 名、こども・保護者・教員・地域住民 1,027 名

- (1)8/1(金)、(2)8/18(月)、(3)8/19(火)鶴見区小学校 3 校 (4)9/5(金)教育大附属天王寺小学校
(5)9/6(土) ゆ〜とあい西成 (6)9/27(土)、(7) 9/28(日)河内長野市 (8)11/1(土)豊里小学校
(9)11/8(日)中崎町ホール (10)2/14(土) ゆ〜とあい西成（アンコール実施）

3 ユースの発想による新たな防災活動の創出

ユースならではの柔軟な発想を生かしてソリューションの提示・提案・発信に取り組みました。

- (1)8/4(月)「高校生未来健康ビジネスコンテスト」(東和薬品主催) 出場・横河電機賞受賞 3 名
(2)9/20(土)、(3)9/21(日)東日本大震災ドキュメンタリー映画&アフタートーク運営・進行 22 名
(4)9/27(土)、(5)9/28(日)河内長野市おやこ防災キャンプ

4 世界との対話を通じた「BOSAI」の発信

国内外のユースが協働し「防災/BOSAI」の意義と重要性を幅広い年代の人々に発信しました。

- 実績：ユース 189 名（海外 17 名）、保護者・教員 50 名、一般（こども/外国人含む）825 名
(1) 5/17(土)「グローバルユース防災サミット in 大阪関西万博」
(2) 8/10(日)「ユース BOSAI 万博」 (3) 11/22(土)「次世代 BOSAI フォーラム」
(4) 3/29(日)「BOSAI 世界地図展 2026 リアルミーティング in ひとぼう」

5 防災情報の収集→可視化→共有→発信

調査実績：155 カ国・地域、293 組、651 名

(1)万博会場での対話型発信・防災意識調査を通じたデータ収集 19 日間

7/5(土)、13(日)、14(月)、18(金)、19(土)、20(日)、21(月)、25(金)、8/3(日)、10(日)、14(木)、19(火)、21(木)、22(金)、26(火)、30(土)、9/8(月)、17(水)、21(日) 106 名(海外ゲスト 7 名含む)、

(2)「防災世界地図」の展示 12 件

①4/15(火)～3/31(火)万博 ATC パビリオン(グリーンエコプラザ)

②5/17(土)グローバルユース防災サミット 2025 in 大阪・関西万博

③5/31(土)NIKKEI 未来共創 ENGINE 会場

④7/5(土)読売新聞社大阪本社ロビー

⑤9/7(日)ぼうさいこくたい in 新潟

⑥9/17(水)万博電力館パビリオン

⑦9/20(土)大阪教育大学天王寺キャンパス

⑧9/21(日)大阪総合保育大学

⑨10/11(土)City ラボ東京

⑩11/22(土)万博 ATC パビリオン

⑪2/14(日)ゆ〜とあい西成

⑫3/17(火)～5/10(日)人と防災未来センター

6 多様な主体との連携強化

市立デザイン教育研究所(デ研)との万博展示物制作のほか、読売新聞社、JICA 関西、大阪青年会議所、大阪公立大学、日本経済新聞社万博室、西尾レントオール(株)との連携、あるいは助力をいただき、防災を多様な視点と手法で伝え、その成果を「防災世界地図」に反映しました。6 件 23 日間

7 自立・自律した組織づくり

高校生、大学生のユースリーダーを中心に、ユースによる主体的な活動および組織運営を推し進めました。ユース会議 31 回

8 メディア出演、掲載、受賞

会の活動やユースの姿を市民にご覧いただき、新たなユースの確保・発掘および支援者獲得につなげるため、積極的にメディア取材を受け、出演の機会を広げました。テレビ、ラジオ、新聞など 8 件

【事業実施の成果】

ユースによる会議で意見集約や計画の組み立てを行い、大学教員や防災研究者、災害支援の専門家などのプロボノ人材が助力しました。防災士資格を持つ小中学生の参画が増え、ユース層の幅が広がりました。学校や地域が異なるユース間の連携や協働を生み出すプラットフォームとしての役割に重点を置いて活動しました。特に南海トラフ地震など私たちを取り巻く災害リスクが徐々に高まっていることを踏まえ、当会の活動も最新の情報をうい、活動の精度や粒度を上げていくことに注力しました。

【今後の展望と課題】

- ・受験や就活など、ユースのライフステージの変化により、経験値の高い活動初年からのメンバーが活動から離れる期間が生じ、ユース間の知見や経験の継承や組織運営の安定に課題が残りました。

ゆえにユースリーダー会議の仕組みを強化し、役割分担の明確化と段階的なリーダー育成を体系化することで対応を行いました。

- ・万博を契機に地域と国際の双方で対話・発信が大きく進展しました。海外ユースや研究者との継続的な交流により、「共同調査」「共同発信」へと発展させます。

- ・「防災世界地図」の活用方法として、人と防災未来センターでの「防災世界地図展」をはじめ、発信の機会を積極的に探り、この地図を日本と海外の双方で防災について人々から得た知識や情報、災害に強い未来への思いなどを「可視化した知」と位置付け、万博のレガシー継承につなげます。

最後になりましたが、2025 年度の活動をお支えくださり、誠にありがとうございました。



インクルーシブな居場所支援「ぱぶすぺ」

NPO法人サードプレイス

事業HP等のURL：<https://thirdplace-npo.com/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

本当の意味の“インクルーシブ”を推進するため、障害がある子もない子も、そして、その保護者達も巻き込んだ、ソーシャルな居場所支援。

配慮が必要な子供とそうでない子供が一緒に空間にいて、一緒に遊ぶことで、障害などの理解が進み、配慮が必要な子供の居場所にもなります。また、そこに、親（特に母親）の居場所を兼ねること、親の理解も進み、学校や放課後の子供のコミュニティだけではなく、家庭内でのインクルーシブ教育も推進できます。また、親の居場所は、育児に関する情報交換を行い、育児軽減のための支援にもつながります（特に配慮が必要な子供をもつ親の育児負担の軽減を目指します）

【事業の紹介】

当会が運営する児童発達支援・放課後等デイサービス『Nest』や中大江校下センターにて、不定期で居場所支援を開催いたしました。

毎回約10名の参加者がありました。

また、隔月の第四土曜は、『Nest』にて、インクルーシブな科学体験イベントを開催いたしました。

8月23日「水、きれいになるかな？」（濾過実験）

9月27日「塩の不思議 そろとアートを作ろう」

11月22日「秋、みつけた」

12月20日「電気の不思議 光るクリスマス工作」

1月24日「光の不思議 虹色万華鏡を作ろう」

2月28日「インクルーシブなネイチャークラフト」



3月21日 にインクルーシブデイキャンプ開催。参加者約50名

6月には北大江公園まつりに参加（今年度も参加いたします）。

【事業実施の成果】

インクルーシブな居場所支援として、2024 年度にスタートいたしました。2025 年度もご支援をいただき、『ぱぶすぺ』を運営することができました。

約 2 年間、運営を続けましたが、継続性のある居場所支援の運営が難しく、今後は、不規則なイベント中心の『ぱぶすぺ』を基軸とし、運営を進めていければと思っています。

イベント開催では、中々、社会参加が難しいお子さんが多く、親御さんから、「来年もぜひ参加したい」、「参加の制限が大きく、兄弟達も参加できることで、とても楽しかったです」と、喜びの声をたくさん聞くことができました。



【今後の展望と課題】

ぱぶすぺの定期開催がスタッフ配置の都合上難しく、今後、ぱぶすぺの姿は、少し変貌を遂げ、不定期で、デイキャンプや夏祭り参加など、イベントを中心として作り上げていく予定です。

2026年度は昨年度に続き、インクルーシブ科学イベント（毎月）を中心に、夏と春にデイキャンプを開催予定です。

また、重心型のデイを今年度中に設立予定で、さらなる相互理解、インクルーシブの居場所支援の発展を目指していきたいと思っています。

引きこもりからの解放！！精神障害者のための回復コンサート

NPO法人 ジェイズマスクワイア

事業HP等のURL：<https://npojmc.com/>



助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

私たちは、精神障がいを抱える方々との出会いを通して、

「うつ病など心の痛みに苦しむ人を少しでも救いたい」という思いから法人を設立しました。

コロナ禍以降、全国的に引きこもりの増加が深刻化し、家族関係の悪化にもつながっています。

内閣府の2023年調査では、半年以上自宅に閉じこもる“引きこもり”が146万人を超えると発表され、さらに高齢化・長期化が進むことで、家庭内の負担や関係悪化が一層深刻になっています。

こうした状況を改善するため、私たちは次の3つを目的に事業を進めています。

- 1、音楽や文化・芸術活動を通じて、精神障がい者が引きこもり状態から解放され、心を回復できる場をつくること。
- 2、障がい者家族会の参加により、家族関係の修復を支援すること。
- 3、心の孤立を減らし、自殺者数の減少につなげること。

私たちは、地域の人々が心豊かに交流できる文化を育みながら、

精神的な痛みを抱える方々とその家族が再び希望を取り戻せる社会を目指しています。

【事業の紹介】

2025年4月より大阪市東住吉区田辺1-5-26「Gospel House」にて、障がい者、児童、また一般の人々も参加し定期音楽交流会を開催しました。

またその交流会での音楽練習を発表する場でもあるコンサートは「家族の絆 クリスマスコンサート Vol.3」として、2025年12月6日（土）大阪市平野区平野南3丁目11-53 平野区民ホールにて開催しました。

音楽交流会には延べ70名以上の精神障がい者が参加。一般参加者のトータルは75名でした。

またコンサートの参加者総数は250名、特に今回の事業目的である、引きこもりの精神障がい者が12名参加してくださり、私たちの当初の目標人数に達しました。



【事業実施の成果】

○参加者からの声（地域の一般参加者）：

自分の娘がダンスチームの一員として出演させていただけることもあり、コンサートに参加させていただきました。障がい者の方もたくさん来ておられ、まさにバリアフリーな会場だったことが印象に残っています。コンサートの最後は会場の皆さんと一緒に手をつないでダンスできたことがとても楽しかったです。また次回も参加したいと思いました。

精神障がい当事者（中本さん）：音楽交流会に参加させていただきました。音楽だけでなく、ダンスや整体もありとても有意義に楽しむことが出来ました。コンサートには私たち障がい者を無料招待してもらえたことにも感謝しています。またこのような機会があれば参加したいと思います。

市民や寄付者様に対して：近年、引きこもりの数は依然として減らず、物価高騰によって生活が苦しくなる家庭も増えています。その影響は親子や親族の関係にも及び、心の余裕を失う人が少なくありません。そんな中、今回のイベントでは、特にダンスに参加した子どもたちの活躍が大きな力になりました。子どもたちの明るいエネルギーが会場を満たし、大人と子どもが自然に交流する姿が多く見られました。その場にいた多くの方が、久しぶりに“心の安らぎ”を感じてくださったのではないかと思います。

私たちの活動は、引きこもりや心の痛みを抱える人を支えるために、市民の皆さまが力を寄せ合って実現しているものです。今回のイベントを通じて、年齢や障がいの有無に関係なく、誰もが安心して参加できる—— 本当の意味でのバリアフリーな空間が生まれたと強く感じています。

皆さまの温かいご協力が、地域の未来を確実に明るくしています。これからも、心の孤立をなくし、誰もがつながり合える社会を一緒につくっていきたいと願っています。



【今後の展望と課題】

今年は昨年のコンサートに協力団体として参加していただいた「社会福祉法人みつわ会」さんの地元寝屋川市に住む障がい者を招き「引きこもりからの解放！精神障害者のための回復コンサート」を行う計画です。

2026年4月から既に定期音楽交流会がまっており、大阪市北区において11月に障がい者のための引きこもり解消コンサートを行う予定にしております。

このコンサートでは音楽とダンスを中心にし、地域の方々や障がい者家族も参加して「心のふれあい」をテーマに、事業を進めていく方針です。

